

1. 利根沼田地域に新たなパワーを(活動のきっかけ)「とねぬまた本気ミュージカル」が活動を開始したのは令和4年2月。群馬県に発令されていた3回目(最終)の「まん延防止等重点措置」が、まさに解除されようとする直前のタイミングであった。2年前の令和2年2月末には全国の小中高等学校が一斉休校となり、4月には初めての「緊急事態宣言」が発令されるなど、人々の生活は一変した。外出はもちろん、自由に会話することさえ制限され、誰もがマスクを着け、表情も乏しくなり、声を出すことも、歌うことも、自由に表現することもできない日々が続いた。多くの催し中止となり、地域全体が何をすることも消極的になつていったコロナ禍だからこそ、感じたこと、気づいたこと、そして「できること」「やるべきこと」があった。失われつつあった芸術や文化的活動、そして、みんなで集まり一つのものを創り上げる喜びを実感できる場を、過疎化の進行する利根沼田地域で立ち上げたい。これを地域の新たなパワーにしていきたい。そんな想いに共感した有志が集まり、本活動はスタートした。

本活動は、20〜60代の幅広い世代の地域住民13名がスタッフとなり運営している。本職として携わっている人はおらず、会社員、自営業者、看護師、主婦、公務員など、立場も実に様々である。演劇を観たり演じたりすることが好きな人、信頼も厚くリーダーシップを発揮できる人、交友関係が広く仲間を巻き込む力のある人、事務処理を得意とする人など、それぞれの持ち味が存分に発揮されている。もともと2名の発起人から始まったこの活動は、仲間が仲間を呼び、公演を重ねるごとに共感した人たちが主体的に関わるようになり、活動の輪が広がりがつつある。

まちむら発見①

利根沼田地域をミュージカルのまちに

群馬県沼田市・片品村・川場村・昭和村・みなかみ町
とねぬまた本気ミュージカル実行委員会



2. みんなが本気で楽しめる市民ミュージカル

(活動内容)

本活動は、キャスト(出演者)や運営スタッフはもちろん、観客までもが一体となって本気で楽しめる、ゼロから完全手作りの市民ミュージカルである。これまで延べ60名のキャスト、800名を超える観客に加え、活動に賛同してくれたボランティアスタッフ、協賛してくれた地元企業、クラウドファンディングを通じて応援してくださった多くの方々の協力により、2年間で2回の公演を実現することができた。

記念すべき最初の公演は令和5年3月。活動開始から3か月後の令和4年5月にキャスト募集を開始し、7月から翌3月の公演に向けて、9か月間の稽古を重ねた。キャストとして参加したのは、小学生から70代まで、老若男女を問わない35名の地域住民である。参加の動機も様々で、歌うことが好きな小学生、芸能の世界を目指す中学生、若い頃に演劇に親しんだ大人たち、新たな出会いや生きがいを求める方々など、多様な想いが集結した。演目も「STARTING NOW」と私たちの物語」と題し、地元の4人の社会人が市民ミュージカルの立ち上げに挑戦する物語で、本活動の歩みと重なるオリジナルストーリーを披露した。

第2回公演は令和5年12月。前回出演者からの強い要望もあり、同年5月に再びキャスト募集を開始。7月から週2回、6か月間の稽古を行い、クリスマススイブには満席の会場を大いに盛り上げた。一般的な市民ミュージカルが既存の演目のみを演じることが多い中、本ミュージカルでは、地域の方々により身近に感じていただき、地域の魅力を発信するため、利根沼田地域を題材としたオリジナルストーリーにこだわって

いる。第2回公演では、沼田市の天狗を主人公とした「忘れない約束」を披露した。

このような活動を継続する中で、現在は令和8年3月に予定している第3回公演「鼓動×キミはどう生きてく？」に向けた準備を進めている。本公演は、これまでの公演よりも座席数を約2倍に拡大した会場での開催を予定しており、大きな挑戦となる。

地域に根ざした市民ミュージカルとして、より多くの方々に舞台を届けたいという想いのもと、キャスト・スタッフが丸となって取り組んでおり、これまでに培ってきた経験やつながりを活かしながら、さらなる表現の可能性を模索している。

3. ファンを増やし、できることは自分たちで

(活動経費)

ミュージカルの運営にあたっては、活動を継続可能なものとするため、補助金等に過度に依存せず、自主的な財源で賄うことを基本としている。主な財源は、①キャストからの会費、②公演チケットやオリジナルグッズの売上、③地元企業や地域の方々からの協賛金・寄附金である。また、経費を抑えるため、衣装は地元企業の協力を得て古着を活用したり、大道具や小道具は参加者自らがDIYで制作したりするなど、限られた予算の中で最大限の効果を発揮できるよう、楽しみながら工夫を重ねている。

第2回公演では、舞台の質をさらに高めるため、専用ピンマイクの購入を目的としてクラウドファンディングに挑戦した。その結果、多くの温かい応援メッセージとともに、約70万円のご支援をいただくことができ、活動への大きな励みとなっている。



第2回公演をやり遂げたキャストと運営スタッフの集合写真
(令和5年12月)



第1回公演の一場面、手作りだが本格的なミュージカル
(令和5年3月)

4. 人々の交流と地域活性化への貢献(成果と効果)

コロナ禍の地域を盛り上げようと始まった本活動は、多様な人々が関わることで、次のような成果や効果を生み出している。今後も新たな文化の芽を育み、市町村の枠を超えて利根沼田地域を盛り上げる一つのきっかけとしていきたい。

●参加者の表情が生き生きとしており、毎回の練習や公演を心待ちにする声も多く、多くの生きがいを生み出している。

●活動を重ねる中で参加者同士の絆は強まり、市町村の枠を超えた交流や関係性を築く場となっている。形成された新たなコミュニティの輪は、別のプロジェクトにも波及し、地域を盛り上げるきっかけとなっている。

●学校や家庭などに交友関係が限定されがちな子どもたちが大人から多くの刺激を受け、大人は子どもたちから活力をもらうなど、世代を超えた交流の場となっている。

●本活動での経験を活かし、新たなことにチャレンジできる成長の場となっている。

●文化芸術に触れる機会の少ない山村地域において、新たな文化を掘り起こす場となり、観客にも多くの感動を届けている。

●地域を題材としたオリジナル作品とすることで、郷土愛を育み、地域の魅力発信にも貢献している。

(とねぬまた本気ミュージカル実行委員会)

事務 大川志向)